

広報

みんなのしあわせ

じん けん ひょう ご
人権デザイン標語

ちょう ない せい と さく ひん
町内生徒の作品



上毛中学校 2年 木下 明音(最優秀賞)



上毛中学校 3年 佐野 葉月(優秀賞)



上毛中学校 1年 山口 結加(入選)



上毛中学校 1年 足立 琉(入選)



上毛中学校 2年 了戒 凜星(入選)



上毛中学校 2年 松本 千結子(入選)

人権週間 12月4日(木)~12月10日(水) 2025
No.21

とう ばる しょう がっ こう じん けん きょう いく 唐原小学校の人権教育

ゆた ところ じ ぶん たいせつ とも ほか ひと たいせつ みと じ どう いくせい
豊かな心もち、自分の大切さと共に他の人の大切さを認めることができる児童の育成

じん けん がく しゅう □人権学習

- 低学年は、善悪を判断し、進んで正しいことをしようとする心や友達と仲よくしようとする心について考えました。
- 中学年は、友だちと互いに信頼し、助け合おうとする心やみんなで公正、公平な態度で接しようとする態度について考えました。
- 高学年は、一人ひとりが考えて行動することが大切であることに気づき、集団生活を充実させようとする態度や、個性を伸ばし充実した生き方をしようとする心について考えました。
- たんぼ学級は、優しい言葉かけやあたたかい応援を行い、仲良くできることを体感できるような活動をしました。

へい わ がく しゅう □平和学習

8月6日に平和集会を行いました。校長が、「みんなのキラキラした笑顔がこれからもずっと続くようにするためには、何ができるかな」「平和な世の中が当たり前ではないんだよ」「平和な世の中にしていくために、今の自分たちにできることは、自分の思いを伝えることや人の思いを聞くこと」という話をしました。

また、人権担当が、『へいわって、すてきだね』の絵本の読み聞かせを行いました。各学年では、絵本の読み聞かせやDVD視聴を通し、戦争の恐ろしさと平和の大切さについて考えました。考えたことや感じたことを感想に書き、本年度も「唐原小・平和の木」を作成し、1年間掲示し、平和への思いを共有します。

おも ころ はぐく なか ま たて わ ほん かつ どう □思いやりの心を育む仲間づくり～縦割り班活動～

毎週火曜日は、朝の15分間、縦割り班で運動場や花壇の花植えや除草を中心とした活動を行い、異学年集団による交流を図っています。また、1年生の歓迎集会や運動会、百人一首大会など、年間を通して高学年をリーダーと

した活動を積極的に行うことで、児童が自ら学校生活を豊かにする心を育てています。

ち い き ほ こ しゃ れん けい □地域・保護者との連携

～コミュニティ・スクール唐原小学校～

地域のみなさんに、毎日の登下校の見守り活動を行っていただいています。PTA活動では、年2回、除草作業を行っています。また、地域の方にも参加していただき、PTA広報部主催の教育講演会や、親子ふれあい活動を行い、心豊かな児童の育成を目指しています。



公開人権学習



平和学習



縦割り班による花植え活動



教育講演会

にし よし とみ しょう がっ こう じん けん きょう いく 西吉富小学校の人権教育

じぶん かんが はんだん じ た じんけん そんちよう たい ど いくせい みと あ ささ あ しゅうだん
○自分で考え、判断し、自他の人権を尊重する態度の育成 ○認め合い、支え合う集団づくり

じん けん そん ちよう にん げん かん けい 〈人権が尊重される人間関係づくり〉

本校では、異学年集団による縦割りブロック活動を行っています。

高学年が中心となって、運動会、1年生の歓迎集会、なわとび集会、芋の栽培活動や週に一度の縦割り掃除に取り組む中で、お互いを尊重し、認め合う態度を育てています。

じん けん がく しゅう 〈人権学習〉

6月の授業参観では、「友達と仲良くし、助け合う心」「相手に礼儀正しく接する心」「誠実に行動しようとする心」など人権尊重に視点をあてた「心」の学習を行いました。授業ではいろいろな立場に立って気持ちを想像したり、友だちと考えたことを伝え合ったりすることを通して、規範意識や自他を大切にしたいことを標語にし、玄関に掲示しました。

へい わ がく しゅう 〈平和学習〉

8月6日に読書ボランティア「未来」さんから『へいわってすてきだね』『つるちゃん』の読み聞かせをしていただきました。低学年と高学年に分かれて発達段階に合った本の読み聞かせを聞いたり、ボランティアの方の戦争体験談を聞いたりできました。戦争が行われていた時のお話を通して、自分の身近な人が亡くなる悲しみ、恐ろしさ、平和であることの尊さについて考えることができました。「私達のこの平和な生活がずっと続いてほしいです。」「自分の家族がなくなる悲しみをもう誰にも味わってほしくないです。」とたくさんの児童が戦争について感想を発表しました。



異学年集団の交流



人権学習



読み聞かせ

友枝小学校の人権教育

- 自分自身で生きていくために必要な基礎学力を獲得した子どもの育成
- お互いにそれぞれの集団の中でコミュニケーションができる子どもの育成
- 自分を大切にすると共に、友だちを大切にできる子どもの育成

学力保障の取組

- 朝のチャレンジタイムでは、基礎基本の確実な定着を目指し、全校で音読・漢字・計算学習に取り組んでいます。
- 協働的な学びや学習の振り返りを通して、自他のよさを認め合える集団作りを行っています。



協働的な学びの様子

人間関係形成力を育てる取組

- 全校児童で縦割り班をつくり、6年生を中心に、運動会、栽培活動、縦割り掃除、縄跳び集会など、様々な活動を行っています。お互いのよさを認め合い、発達段階に応じた態度や言動を身に付けています。



いもさし集会(縦割活動)

人権意識を高める取組

- 6月23日に、沖縄慰霊の日についてミニ人権集会を行い、感想を書きました。
- 8月6日の平和学習では、DVDを見て平和の大切さと自他の命を大切にすることについて考え、平和への思いや感想を書きました。



平和学習

南吉富小学校の人権教育

～命を大切にする心や地域を大切にする心を育む～

平和学習の取組

8月6日は、全校で平和集会を行いました。戦争当時を振り返る写真や平和教材をもとに、広島と長崎に投下された原子爆弾について学び、戦争の悲惨さと平和の尊さを学びました。また、自分たちの日常生活においても、自分の言葉で思いを伝えたり相手の思いを受け止めたりして問題を平和的に解決していくことの大切さを学びました。二度と戦争を起こさない、平和をみんなで守っていきたいという思いをもつことができました。



平和学習

人権週間の取組

人権週間では、一人一人の違いを認め合ったり、自分や友達の良いところを見つけたりして、みんなが大切な存在であることを学習しました。人権集会では、各学年が学習したことを全校に伝えました。みんなが笑顔になる言葉を考え、全校で「ふわふわ言葉の花」を咲かせる取組も行いました。



人権集会

地域や保護者とのつながり

地域や保護者のみなさんが、毎日の登下校で児童の安全を見守ってくださっています。また、食育を中心にゲストティーチャーとして児童の学習を支援していただいたり、読み聞かせや習字、クラブ活動などの学習活動にご協力していただいたりしています。学校運営協議会を中心に、学校と保護者、地域が連携して、豊かな心の児童の育成を目指しています。

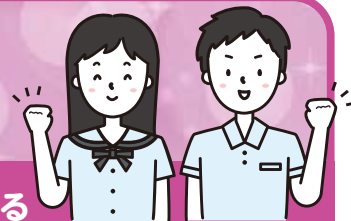


人権週間の取組



地域の方との交流「もちつき大会」

こう げ ちゅう がっ こう じん けん きょう いく 上毛中学校の人権教育



さ べつ き さ べつ がわ おも た たが そんな せい と そだ
差別に気づき、「差別される側」の思いに立ち、お互いを尊重する生徒を育てる

7月の「福岡県同和問題啓発強調月間」にあわせて、人権学習を行いました。

1年生は、『ちがいのちがい』という教材を用いて、お互いの違いを認め合い、みんなが楽しく過ごせる学級になることを目的に学習しました。いろんな違いの事例カードを「あってよい違い」と、「あってはいけない違い」に、班で考え分類しました。その中で、人は個性があり、「違いによる差別はあってはいけない」という結論に達しました。

2年生は、『無意識の思い込み』という教材を用いて、多様性を尊重し合う社会の実現を目指すことを目的に学習しました。無意識の思い込みは、誰にでもあり、それに気づかずにいると、自分の「言動」が無自覚のうちに相手を傷つけてしまうことがあるということを理解しました。

3年生は、『めぐみ』という教材を用いて、様々な人権課題を解決し、よりよい社会を実現することを目的に学習しました。様々な人権課題を解決するためには、当事者だけではなく他の人が関心を持ち行動していくことが大切であるということを理解しました。

どの学年も共通して『差別を許さない心、お互いを尊重し合う心を育てる』ことを目標として、どの生徒も積極的に取り組んでいました。



2年生の人権学習



3年生の人権学習

けい はつ かつ どう 啓発活動

じん けん はな うん どう 「人権の花」運動

「人権の花」運動とは、福岡法務局北九州支局及び行橋支局管内に所在する小学校を対象に、各自治体や人権擁護委員協議会、法務局が主催となって行う人権啓発活動のひとつです。児童が協力し合って人権の花である「ひまわり」を育てることで、周囲への思いやりや命の尊さを実感する中で、人権尊重思想を育み、情操をより豊かにすることを目的としてお

り、上毛町においては町内4小学校から毎年1校を対象に開催しています。

毎年11月には実施した小学校において感謝式を開催し、人権に関するイメージキャラクター「まもるくん」と「あゆみちゃん」とのふれあいや記念撮影、児童が大切に育てたひまわりの種入りのメッセージカードを付けたエコ風船飛ばしを行っています。



感謝式



エコ風船飛ばし

こう げ まち じん けんきょう いく けん きゅうきょう ぎ かい しゅ さい じ ぎょう 上毛町人権教育研究協議会 主催事業

じん けん がく しゅう かい 人権学習会

多くの方々が人権感覚を身につけ、互いの人権を尊重し、認め合って共に生きていく社会を実現することを目的として、町人権教育研究協議会の企業会員の皆さんを対象に、毎年人権学習会を開催しています。

令和7年度は、7月31日にAstemo株式会社九州工場において「職場におけるハラスメント防止とアンコンシャス・バイアス」をテーマに学習会を開催しました。

講師には、濱崎 剰氏（福岡県教育庁京築教育事務所 人権・同和教育室）をお招きし、様々なハラスメントとアンコンシャス・バイアスの意味や問題点について、具体的な事例を用いてご講話いただき、ハラスメントの無い職場環境の創出に向け、自分の業務や生活で生かすこと、取り組むことができそうなことについて考える機会となりました。

参加された皆さんのアンケートでは、「自分や周りの人の立場で考えることを心掛けたい」、「自分にとって普通のことは他の人とは違う」、「普段のコミュニケーションや対応を見直し、誰もが安心して働ける職場づくりに貢献したい」などの感想が寄せられました。



人権学習会

けい はつ かつ どう 啓発活動

国際連合は、世界人権宣言採択を記念して、採択日の12月10日を「人権デー」と定め、加盟国等の人権の発展を更に推進するよう呼びかけています。

法務省では、この「人権デー」を最終日とする1週間（12月4日～12月10日）を「人権週間」と定め、全国的に啓発活動を実施し、広く国民に世界人権宣言の意義を訴えるとともに、人権尊重思想の普及高揚を呼びかけています。

上毛町でも、毎年人権週間にあわせて、人権講演会を開催しています。令和6年度は、11月30日（土）にげんきの杜 多目的ホールにて、シンガーソングライターのちひろ氏を講師にお迎えし、「ちひろ人権コンサート みんなちがって、みんないい生き方を～金子みすゞの心とともに～」と題し、人権講演会を開催しました。また、講演会の開催にあわせて、町内小中学校の児童生徒から募集した人権ポスター・デザイン標語の入選作品の表彰式も行いました。



人権講演会



人権ポスター・デザイン標語入選作品の表彰式

上毛菜穂
(アナウンサー)

唐原健二
(解説員)

ヤングケアラー
とは？

西吉さん 南吉さん
(ケアをしていた人) (ケアをしていた人)

こう げちゅうがっこう
上毛中学校
美術部OG画

こんにちは。

お昼のニュース、
アナウンサーの上毛菜穂です。

今日の特集は、近年、国や
地方自治体で問題視されはじめ、
社会的関心が高まっている

「ヤングケアラー」

についてです。

日本における
ヤングケアラーの実態は
少しずつ明らかに
なってきたものの、

詳しく知らないという方も
多いのではないしょうか。

ヤングケアラーとは何か？
なぜ問題なのか？という
現状や原因を始め、
具体的な支援策などを
解説していきます。

解説員の唐原健二さん、
今日はどうぞよろしく
お願いいたします。

はい。「いちご」
よろしく願っています。

難しい問題ですが、
この番組を通して

共に「知る」「学ぶ」
「何が大切なのかを皆さんと
考えていきたいと思います。」

そもそも、
ヤングケアラーとは、
法律上の定義は
ありませんが、

「本来、大人が担うと
想定されている家事や
家族の世話ケアなどを
日常的に行っている子ども
若者のことを指します。」
(出典：こども家庭庁)

そうですね。

責任や負担の重さにより、
学業や友人関係などに
影響を与えてしまうことが
あります。

具体的な事例を見ながら、
考えて行きましょう。

ヤングケアラーは、
こんな子どもたちです。

① 障がいや病気のある家族に代わり、
買い物、料理、掃除、洗濯などの家事を
やっている。

② 家族に代わり、幼いきょうだいの
世話をしている。



③ 障がいや病気のあるきょうだいの世話や
見守りをしている。

④ 目を離せない家族の見守りや
声かけなどの気遣いをしている。



⑤ 日本語が第一言語でない家族や、障がいのある
家族のために、通訳をしている。

⑥ 家計を支えるために、労働をして、障がいや
病気のある家族を助けている。



⑦ アルコール・薬物・ギャンブル問題を
抱える家族に対応している。

⑧ がん・難病・精神疾患など慢性的な
病気の家族の看病をしている。

9

⑨ 障がいや病気のある家族の
身の回りの世話をしている。

⑩ 障がいや病気のある家族の
入浴やトイレの介助をしている。

10

子どもには
「子どもらしく過ごすこと」も大切です。
家族の手伝い・手助けをするのは、「ぶつこうこと」
かもしれません。

でも、学校生活に影響が生じたり、心や体に
不調を感じるほどの重い負担がかかっている
場合は、注意が必要です。

11

自分のことや家のことを話すのは
勇気がいると思います。
でも、あなたの話を聞いて、共感して、サポート
してくれる人は必ずいます。学校の先生、スクール
カウンセラー、親戚・友達など、信頼できる相手に
相談してみましよう。

では、実際にケアをしてきた方の
体験談を聞いてみましょう。

12

「ケアをしていた私たち」

南吉さん

(小学生の頃から心の病気になった
母親のケアをしていた)



13

小学生の頃は、「ケア」という感覚は
全くなく、ただ聞いただけでできず、
答えのない日々やたくさんさんの困りごと
悲しくなることも多かったです。

中学生の頃は、投げやりになったり、
学校に行かなくなることも
ありました。

高校生くらいから、自分で
調べて母の病気のことを詳しく
知り、相談に行き、できることを
していました。

「答えのないケア」を自分なりに
なんとか続けることと、自分の生活を
なんとか送ることが、とても大変でした。



14

西吉さん

(高校時代、認知症を持つ祖父の
介護をしていた。)



15

介護により、友達などとの関係性が
薄れてくるにつれ、孤立感を強く
感じるようになりました。

ただ、介護を始めた頃は、自分が
「ケアラー」であるという自覚は
あまりなく、当たり前のことを
しているだけだと思い、淡々と
日々の介護に向き合っていました。

また、自分が置かれている現状や
直面している辛さについても、
あまり考えないようにしていたこと
を覚えています。



16

【世話を必要としている家族(複数回答)】

(%)

	調査数	父母	祖父母	きょうだい	その他	無回答
中学2年生	319	23.5	14.7	61.8	3.9	9.4
全日制高校2年生	307	29.6	22.5	44.3	5.5	8.8
定時制高校2年生	31	35.5	16.1	41.9	12.9	9.7
通信制高校生	49	32.7	22.4	42.9	12.2	0.0

※通信制高校生は「18歳以下」と「19歳以上」の合計

(出典)㈱日本総合研究所「ヤングケアラーの実態に関する調査研究」2022.

https://www.jri.co.jp/MediaLibrary/file/column/opinion/detail/2021_13332.pdf,370p

17

世話を必要とする家族は、
「きょうだい」が突出して多いのが
特徴です。中学2年生で、「父母」を
世話しているのが23.5%に対して、
「きょうだい」は61.8%に
のびります。

「世話で一番多いのは、
「家事」と「感情面」のケア」

18

〇〇さんは、弟と妹が2人いる
5人家族でした。10代の時に母親が
病気にかかり〇〇さんは長い間自宅で
看病し学校にも行けませんでした。

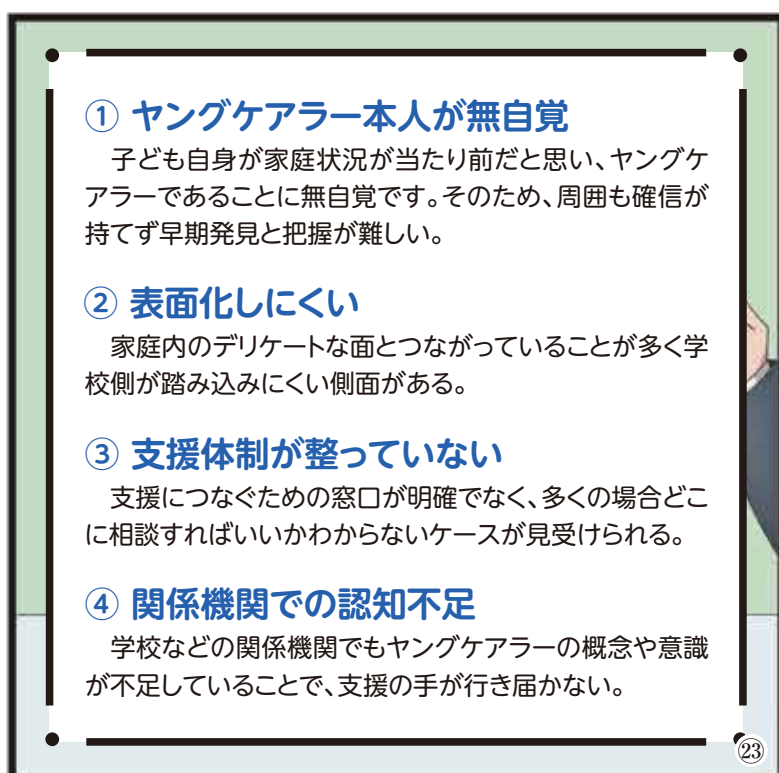
その後母親が他界すると、
次は、父親が交通事故に遭い
介護が必要となりました。

現在〇〇さんは生活を支えるため
アルバイトをしながら家事や通院、
介護をしています。



弟と妹は、精神的に不安定で家から
出られず、小さい頃から引きこもりです。
このまま親の介護や家族のために家事を
し続けて自分の一生が終わるのかと
思うと、絶望すると思います。

家族は大切に面倒を見るのは
当たり前だと思うものの、
やりたいことができないことに、
ストレスを感じているそうです。





24時間子どもSOSダイヤル

夜間休日も受け付けていますので、緊急時にも利用できます。
※通話無料、24時間受付、年中無休

0120-0-78310

(なやみいおう)

各地域の児童相談所

以下のフリーダイヤルに電話をかけると内容やお住まいの地域によって一番近い施設につないでくれます。
※通話無料

0120-189-783


(いちはやくおなやみを)

子どものSOS相談窓口

電話やSNS、チャットボットなど、幅広い手段で相談を受け付けています。

◆チャットボットで相談受付を探す
18歳以下のみなさんへ

◆法務局LINEじんけん相談
対応日時 月曜日～金曜日

※出典:文部科学省 子供のSOS相談
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/06112210.htm



「ヤングケアラーかもしれない」「子どもの友だちが、ヤングケアラーかもしれない」と悩んだり、思い当たる節があったら、次の窓口にご相談してみよう。」

26

人権週間に合わせて行われる主な催し

●上毛町の主な催し

令和7年度人権啓発ポスター及び人権啓発デザイン標語に係る入選者を下記のとおりに決定しました。
入選作品につきましては、11月30日から12月31日まで「げんきの杜」において展示を行うほか、町が
作成する人権啓発冊子や人権カレンダーに掲載し、町内全戸配布いたします。

令和7年度 人権啓発ポスター 入選者

【最優秀賞】南吉富小学校 6年 久保田 淳心

【優 秀 賞】友枝小学校 6年 前田 悠貴 南吉富小学校 6年 澤田 怜旺

【入 選】友枝小学校 6年 藤野 千晴 南吉富小学校 6年 土井 健太郎 唐原小学校 5年 了戒 星翔
南吉富小学校 5年 平田 月優 南吉富小学校 5年 穴見 優衣菜 南吉富小学校 5年 藤原 百笑
唐原小学校 4年 佐野 心春 南吉富小学校 4年 小久保 結葵
南吉富小学校 4年 松谷 帆香 西吉富小学校 4年 谷口 陽亮

【掲載作品】「令和8年版 人権カレンダー」に掲載

令和7年度 人権啓発デザイン標語 入選者

【最優秀賞】上毛中学校 2年 木下 明音

【優 秀 賞】上毛中学校 3年 久保山 恋羽 上毛中学校 3年 佐野 葉月

【入 選】上毛中学校 3年 有吉 悠華 上毛中学校 3年 木丸 颯太 上毛中学校 2年 澤田 莉歩
上毛中学校 2年 松本 千結子 上毛中学校 2年 了戒 凜星 上毛中学校 1年 足立 琉
上毛中学校 1年 山口 結加 上毛中学校 1年 長谷川 明飛 上毛中学校 1年 友松 結愛花

【掲載作品】人権啓発冊子「令和7年度みんなのしあわせ」又は「令和8年度 心ゆたかに…」に
それぞれ6点ずつ掲載

●福岡県の主な催し

期 日	時 間	内 容	場 所
12月 6日 (土)	開場 12:00 開演 12:55	福岡県人権週間講演会 ◆講師：柳 優香氏（弁護士・社会福祉士） ◆講演：「小さな声から人権を考える ～ともに生きる社会をめざして～」	クローバープラザ アリーナ棟2階 大ホール (春日市原町) (3丁目1-7)

懸賞 QUIZ 2025年(令和7年)12月31日消印有効

「菜穂ちゃん」についての問題です。次の言葉は、本文の中に出てくる言葉です。

○の中にあてはまる言葉は何でしょう？

「ヤング○○○○ー」

答えがわかりの方は、応募ハガキに住所・氏名・年齢・答え・感想等をご記入の上、お送りください。
正解者の中から、抽選で10名様に素敵なプレゼントを差し上げます。

郵便はがき

879-0490

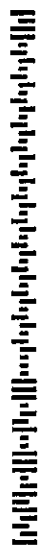
料金受取人私郵便

四日市郵便局
承認

1124

差出有効期間
令和7年12月
31日まで

(切手を貼らずに
お出ください)



築上郡上毛町大字垂水一三二一番地一

上毛町教育委員会内

みんなのしあわせ係 行

《答え》

「ヤング○○○○ー」

じゅうしょ
住所

し めい
氏名

ねんれい
年齢

かん そう など
感想等